



塾生さん、いま何してる？

『塾生3年目 - 独立に向けて』



千龍さんの「ぐい呑み」はショッ
プにも並ぶ予定です。ぜひ手に取っ
てみてください。

最近私が新しく作り始めたものは、「ぐい呑み」です。マツとカツラ、またはニレとセンなど、色の濃いものと薄いものの二種類の樹種を貼り合わせたデザインにしています。それぞれの木肌の違いを楽しめるように、いろいろな樹種を使いました。現在はワンサイズのみですが、今後、酒量に合わせて選べるように、サイズ展開を増やしたいと思っています。」

▼塾生三年目となる千龍さんは、先月から共同工房に移り作業を開始しています。今月からは不定期になりますが、千龍さんの研修レポートをこのコーナーで紹介していきたいと思います。共同工房でどのような作業をしているのか、塾生の生の声をお届けします。

【情景をあらわす - 菓子木型 -】

置戸では桜が咲き始める5月。街中には彩りも増し、短い春がやってきます。淡く暖かな色彩のイメージがある春。和菓子のように繊細で、暖かみのあるお菓子とともにお花見なども良いかもしれません。

今月は、和菓子の中でも干菓子（ひがし）に分類される、落雁（らくがん）を作る際に使用する道具、【菓子木型】についてご紹介します。

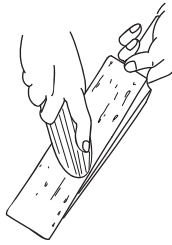
和菓子の意匠には四季折々の花鳥風月や、伝統・物語、古くから伝わる生活行事などが精巧に表現され、それらの優美な形を楽しむ

ことに重点がおかれています。それら表現する木型は、繊細な加工ができるように、柔らかすぎず硬すぎない、彫りやすくて形が崩れにくいサクラ材が使用され、職人によって一つひとつ手彫りで作られています。

菓子木型の登場は江戸時代からと言われます。それまで中国からの輸入に頼っていた砂糖づくりを、8代将軍徳川吉宗が奨励したことから、今に続く高級砂糖、「和三盆」が誕生し、和菓子が作られるようになった事が、菓子木型の登場に関係しています。

今日は何を知ろうか

ふか
かよ
み
コレク
ション



【木型の使い方】

⇒糯米（もちごめ）から作る原料に砂糖を合わせて木型に置き、「げんべら」という専用のヘラを使ってすり込むように押し入れ、固まった所で取り出す



【いろんな菓子木型】



秋田コレクション
匠のギャラリー

【森林工芸館の展示品】

森林工芸館では、現在、日本の伝統建築物で用いられる「和釘」の展示を行っています。

職人の手によって、ひとつずつ手作りで作られる和釘の特徴や、用途などをご紹介します。

森林工芸館にお立ち寄りの際は、ぜひご覧ください。

「木に親しむ日」のお知らせ

今年も「木に親しむ日」のモノづくり教室を開催します。

期間は7月～9月にかけての全6回。19時から21時までの2時間で製作していきます。

モノづくり内容の詳細や、参加受付期間については、来月号の「あれこれ」にてご案内いたします。お楽しみに！

日にち：7月～9月 全6回

時間：19:00～21:00

場所：森林工芸館

(旧開発センター木工室)



今月の一品

かくれた一品 おすすめの一品
私たちの一品をご紹介します！



ショッ
プス
タッ
プ



商品名：新緑ボウル
サイズ：φ120mm、φ150mm
価格：φ120mm 3,190円(税込)
φ150mm 4,400円(税込)
樹種：エゾマツ

新緑。

生命力にあふれ、若々しく、鮮やかに光り輝く。
長い冬の後には緑まぶしい季節がやってきました。

この名前をいただいた器、【新緑ボウル】(工房 優木 作)。小ぶり、銘々にお使いいただくことを前提にしたボウルです。少し厚手のしっかりとした、安定感のある形。小さすぎず、かといって大きすぎることのないサイズ感。エゾマツの明るく、若々しさを感じさせる木肌。これらの要素が、名前に相応しい佇まいを醸し出しています。

この器には、緑豊かな菜の花のお浸しや山菜の和えものなど、大地の生命を感じられる料理が相応しいでしょうか。